

中井町環境基本計画事業点検・評価シート

(一次評価) 令和8年6月16日

(二次評価) 令和8年7月22日

令和7年度分

令和 7 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和8年6月16日

二次評価 令和8年7月22日

項 目	太陽光発電システム設置補助件数	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事 業 名	太陽光発電システム設置補助事業		

◆事業概要

事業 の 概 要	対象 (誰を、何を)	設備設置者	手段 (どのように)	設置費の一部を補助する
	目的 (どうしたいのか)	太陽光発電システムを普及させることで、節電や地球温暖化対策への町民の意識の高揚を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	10	基/年		
事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績	
太陽光発電設備 設置数	1基	5基	5基	
蓄電池 設置数	5基	5基	6基	
HEMS 設置数	1基	2基	1基	

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	C	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
	太陽光発電システムに関してはここ数年の中では数字を下げた。蓄電池、HEMSIに関しては大きく実績の変化はなかった。平成29年度に策定した「中井町地域温暖化対策実行計画」にて、目標値を300件と定めており、今後も事業を継続していく。		

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)太陽光に関しては既築にはすでについてしまってるケースが多く、新築の件数で補助の数字が決まってしまうのではないかと考える。蓄電池、HEMSに関しては新築・既築関係なく補助申請があるため、周知など広げる必要があるのかなと感じる。

(改善すべき点)広報やホームページを使い補助金の更なる周知を行う。太陽光の申請に関しては、既築の家庭での新規の太陽光の設置は減少しているように見て取れ、新築のご家庭に対して周知を広げていく必要がある。

また現在物価高騰などの原材料高騰化による太陽光発電システム等の購入者や補助金申請数減少は引き続き懸念されると考える。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の 方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ ー 1 拡充すべき事業である ├ ー 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ ー 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総 評	太陽光発電等は設置することにより効率的な節電に有効ですが、初期投資が必要です。実績が下がっているため補助を継続するとともに、町民への周知方法や補助金額増額など課題に対する見直しが必要。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	A	A	A	A

令和 7 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和8年6月16日

二次評価 令和8年7月22日

項 目	エコドライブ啓発活動	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	総務課
環 境 像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事 業 名	エコドライブ推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民・事業者	手段 (どのように)	エコドライブの啓発
	目的 (どうしたいのか)	エコドライブを推進することで車両から排出されるCO2を削減し、地球温暖化を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	1	回	
事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績
エコドライブ啓発活動	0回	0 回	2 回
公用車にエコドライブ推進の啓発テープ貼付	6台	6台	0台

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	評 価 基 準	
	B	S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成
		C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ
		D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
コ メ ン ト		
● 公用車へエコドライブステッカーを貼付し、エコドライブの推進を周知。 ● 普段から「エコドライブ」の意識を持ち合わせる事及び内容の把握が大事なことから、広報等を活用して意識高揚や行動内容の周知を図るなどの取組実施に努める。		

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)○エコな運転が来ているか否かを他者が確認や評価をするわけではなく、個人の良識に委ねざるを得ないこと。

(改善すべき点)●交通安全運動期間などに合わせて、エコドライブ(①燃費を把握しよう、②ふんわりアクセル「eスタート」、③車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転、④減速時は早めにアクセルを離そう、⑤エアコンの使用は適切に、⑥ムダなアイドリングはやめよう、⑦渋滞を避け、余裕をもって出発しよう、⑧タイヤの空気圧から始める点検・整備、⑨不要な荷物はおろそう、⑩走行の妨げとなる駐車はやめよう)を啓発。

●「エコドライブ推進月間」の11月に庁舎等へポスター掲示

●神奈川県(環境農政局脱炭素戦略本部室)が申込み(2028年12月31日12時迄)にて無料配布している「エコドライブステッカー」の活用を周知。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	D	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ┌ — 1 拡充すべき事業である ├ — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である			
総評	・エコドライブ啓発活動の実績が二年連続で「0」である。実施できないのであれば県や警察が発する啓発活動やポスター掲示、公用車へステッカーを貼だけでもよいのではないかと。 ・ハイブリット車や低燃費車両によりCO2が削減されている面もあり、今後指標転換も検討すべきでは。				
過去の二次評価	令和3年度 B-3	令和4年度 A	令和5年度 A	令和6年度 A	

令和 7 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和8年6月16日
二次評価 令和8年7月22日

項 目	環境家計簿参加者数	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事 業 名	環境家計簿推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民	手段 (どのように)	環境家計簿を普及させる
	目的 (どうしたいのか)	家庭において環境家計簿を普及させることで、町民の地球温暖化及び環境保全への意識の向上を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	10 人			
事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績	
環境家計簿参加者数 実数	5人	5人	9人	
太陽光発電システム等設置費補助金 受給者	1人	5人	9人	
住宅用蓄電池設置費補助金 受給者	5人	5人	5人	
HEMS設置費補助金 受給者	1人	2人	1人	

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
環境家計簿は太陽光発電システム太陽光設置補助金の申請要件として1年間提出を義務づけており、令和7年度受給者全員に家計簿提出していただいている。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)必要な項目なのかを3月に吟味し、新しく環境家計簿の様式を作り替えた。今後は頂いたデータを有効活用する機会を増やしていく必要がある。

(改善すべき点)令和8年度環境展で頂いたデータを生かした掲示物を展示したが、ホームページや広報などでも載せていきたい。自治体によっては様式の中に杉の木二酸化炭素吸収量への換算などデータをわかりやすい数値に変えているところもあるので、データを町民に対しわかりやすく示していく必要がある。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	B	B	B	C

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ┌ — 1 拡充すべき事業である ├ — 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総 評	・事業が環境家計簿推進であることから、太陽光発電システム等補助金受給者だけでなく広報やホームページを活用し参加者を募りながら普及啓発に努め、成果を町民へ分かりやすく示していただきたい。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	B-2	A	A	A

令和 7 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和8年6月16日

二次評価 令和8年7月22日

項 目	温室効果ガス排出量の削減量	担当課名	産業環境課
		関係課名	総務課
環 境 像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事 業 名	中井町地球温暖化対策推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所、行政	手段 (どのように)	それぞれが主体的に地球温暖化防止に取り組む
	目的 (どうしたいのか)	温室効果ガス排出量を削減する		

◆目標及び事業の実績

※数値的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	26	%	
事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績
公共施設及び公用車の使用によるCO2排出量	1,382,895 kg/CO2/年	1,415,057 kg/CO2/年	1,338,652 kg/CO2/年
CO2削減率(前年度比)	-2.27%	5.71%	5.97%
CO2削減率(平成25年度比)	6.95%	9.44%	3.53%
	↑ 令和6年度の実績	↑ 令和5年度の実績	↑ 令和4年度の実績
低公害車両保有台数(公用車)	21台	21台	17台

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	評 価 基 準	
	B	S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成 C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乗せ D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持
コ メ ン ト		
●電気の使用量がCO2排出量の9割超を占めますが、燃料の使用量は横ばいで推移しているものの、二酸化炭素排出量算出の際に用いる環境省の排出係数が年度や事業者により異なる状況のため、単純に使用量の減少が排出量の減少としないことを鑑みて「B」評価としました。		

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)●排出量全体の9割を占める電気の排出量算出に用いる係数が大きく影響することから、使用量の削減＝排出量の削減とならないため、使用量の削減実態が見えにくいこと。

(改善すべき点)●機器の更新時には、低消費電力のものを選択するように努める。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ ー 1 拡充すべき事業である ├ ー 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ ー 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・使用量の減少が排出量の減少とならないことが分かりづらいが、独自で可能な取組みとして低公害車の導入や照明のLED化、こまめな消灯、エアコンの設定温度などがあり低消費電力機器の選択等と併せて継続実施すべきである。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	A	A	A	A

令和 7 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和8年6月16日
二次評価 令和8年7月22日

項 目	食品ロス対策	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	教育課
環 境 像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事 業 名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所	手段 (どのように)	それぞれが主体的に食品ロス対策に取り組む
	目的 (どうしたいのか)	食品ロスを削減する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	食品ロス削減のための啓発		
事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績
境・中村地区の食ロス調査結果	10.1%	—	11.2%
宮上・北窪地区の食ロス調査結果	—	8.0%	—
学校給食残渣の無償譲渡	1社	1社	1社
食品ロス啓発活動	3校	3校	3校

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	評 価 基 準	
	B	S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成
		C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ
		D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
	コ メ ン ト	
	今年度も引き続き、大井町、松田町の3町で食ロス調査を実施した。	

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)

食ロス実態調査を平成30年度から実施しており、継続的に実施することにより、食品ロスの実態を把握していくことが重要であるが、調査を職員が行っているため、職員負担が大きい。

(改善すべき点)

調査を実施していて、ごみの分別が不十分であることが見受けられることから、分別の徹底について、継続的に周知を行う。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総 評	・児童・生徒に対し食育、環境教育は大切です。引き続き食ロス調査の実施と給食残渣の無償譲渡によるごみの減量化、ごみの分別徹底を周知していただきたい。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	B-2	A	A	A

令和 7 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和8年6月16日
二次評価 令和8年7月22日

項 目	事業系ごみ対策	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	教育課
環 境 像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事 業 名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	事業所	手段 (どのように)	ごみ排出状況の確認及び減量化の啓発
	目的 (どうしたいのか)	事業系ごみの減量		

◆目標及び事業の実績

※数値的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	排出状況の確認、減量化・資源化の啓発		
事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績
事業系ごみ排出量(可燃ごみ)	649t/年	674t/年	691t/年
町内小中学校における可燃ごみ	8.9t/年	3校	3校
町内小中学校における不燃ごみ	0.2t/年	—	—
町内小中学校におけるごみの減量化・再資源化	4.0t/年	—	—
給食施設から排出される配色用油の資源化量	836kg/年	1,042kg/年	855kg/年

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	A	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
足柄東部清掃組合及び収集業者より排出量の報告を依頼し集計している。町内小中学校では、ごみ減量化・分別の徹底に加え、インカートリッジ回収や書道紙リサイクルプロジェクトなどのリサイクルの推進にも取り組んでいる。給食センターでは、廃食用油の資源化に取り組んでいる。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)事業者や学校でのリデュース、リユース、リサイクルを徹底することが必要である

(改善すべき点)各事業所ごとのゴミ減量に対する意識を高めることが必要である

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	B	A	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ┌ — 1 拡充すべき事業である ├ — 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・事業系廃棄物の排出量の把握を継続し、ごみの減量化を図るため分別の徹底とリサイクルの推進を実施していただきたい。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	A	A	A	A

項 目	不法投棄件数、量	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事 業 名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内全域	手段 (どのように)	パトロールや監視カメラの設置、不法投棄物の早期回収により不法投棄されない環境づくり
	目的 (どうしたいのか)	不法投棄ゼロ		

◆目標及び事業の実績

※数値的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	不法投棄ゼロ			
事業内容		令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績
不法投棄 件数		15件	23件	19件
不法投棄 回収量		1, 640kg/年	2, 410kg/年	2, 440kg/年

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	A	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
シルバー人材センターに委託をし、月に6回不法投棄パトロールや神奈川県と合同で年2回不法投棄パトロールを実施した。 また、職員によるパトロールや不法投棄箇所の現地確認・回収を行った。 不法投棄箇所には、注意看板の設置を行い、再発防止に努めた。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)

不法投棄パトロールの継続実施、不法投棄をされない環境づくりが必要である。

(改善すべき点)

民地については原則、地権者管理であるため、環境づくりの周知が必要である。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ ー 1 拡充すべき事業である ├ ー 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ ー 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総 評	・里山の多い中井は不法投棄がされやすい場所なので、引き続き関係機関と連携しパトロールを継続実施し、されない環境づくりが必要。・町民の手で片付けや啓蒙活動を(町内一斉清掃の事業と併せ)継続実施を提案。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	A	A	A	A

令和 7 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和8年6月16日
二次評価 令和8年7月22日

項 目	生態系調査実施	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	生態系調査実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	動植物	手段 (どのように)	定期的な調査の実施
	目的 (どうしたいのか)	調査結果を町の資源として、環境学習や観光等に活用するとともに、生態系保全の仕組みを構築する		

◆目標及び事業の実績

※数値的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	定期的な調査、生態系保全の仕組みづくり		
事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績
副読本(なかいの生きものかんさつブック) 販売量	5冊	2冊	1冊
生態系調査	予備調査	未実施	未実施
外来種駆除数(ハクビシン)	6	26	23
外来種駆除数(アライグマ)	31	38	26

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	評 価 基 準	
	A	S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成 C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持
コ メ ン ト		
本年度から生態系予備調査を実施。調査速報として生息する生き物の紹介を広報誌に掲載したことにより、関心をもってくれた方が副読本を購入していただいた。		

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)農地の放棄や自然災害等による環境の変化により、生物の生息していた地域の環境が変化し、従来のように生育できなくなる生物もいる。また、近年問題になっている有害鳥獣の増殖による農作物被害などもあり各種生物の生息状況に与える影響を解明する必要がある。

(改善すべき点)土地所有者の高齢化等により、草刈りが行われておらず植物が繁茂し大雨などで土手が崩れたままになっている箇所もあるため、適正な管理ができるような仕組みづくりを検討していく必要がある。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	C	D	D	D

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総 評	・耕作放棄、有害鳥獣被害などによる動植物の変化が著しいので、過去の生態系と比較できる調査を望みます。生物多様性を維持するために土地の適正管理できる仕組み作りとして、土地所有者に管理費の一部負担補助金制度を検討してみてもは。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	B-1	A	B-2	B-2

項 目	森林等保全事業	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	森林等保全事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内の森林	手段 (どのように)	国の水源環境譲与税や県の水源環境税の活用、また、日本の竹フアンクラブ等の団体活動により
	目的 (どうしたいのか)	里山の自然環境を地域資源として後世に引き継ぐために、森林の維持保全を継続していく		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	定期的な調査、生態系保全の仕組みづくり		
事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績
森林環境譲与税 譲与金(積立額)	2,517,000円	2,388,000円	1,990,000円
かながわトラストみどり財団による竹林整備	中井中央公園内	中井中央公園内	中井中央公園内
水源の森林づくり事業	古怒田地区11.60ha	古怒田地区17.03ha	古怒田地区11.1ha

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
森林環境譲与税は、現在積み立てをしており、公共施設の整備や改修の際に木質化に活用することを検討している。水源の森林づくり事業では第4期5か年計画に基づき、古怒田地区の森林整備を実施した。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)町内に森林組合や林業事業者がないことから、計画的な森林整備などが行われておらず、民有林の保全は困難。また、相続等により町外在住の所有者が増加していることが管理不全に拍車をかけている。

水源の森林づくり事業については、令和8年度をもって第4期5か年計画が終わり、次期5か年計画を策定する必要がある。令和9年度以降は、県補助対象の拡大により、従来の針葉樹の間伐工以外にも、民家や道路付近の危険木や、竹林の伐採も可能となるが、竹林管理については地権者の意向もあるため、協議していく必要がある。

(改善すべき点)水源の森林づくり事業などを活用し、少しでも森林保全が進むよう努力していく。

森林整備については、協定締結後、1度のみの整備となっているため、返還前に再整備する必要がある。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ — 1 拡充すべき事業である ├ — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総 評	・森林の保全は地権者の意向、保全する人や予算など諸問題もあるが、継続的整備は必要であり補助金を活用しながら定期的に出来るような仕組みを構築していただきたい。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	A	A	A	A

項 目	荒廃農地等活用事業	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	荒廃農地等活用事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	荒廃・遊休農地等	手段 (どのように)	農地中間管理機構を活用した新規就農者や担い手による荒廃農地等の削減
	目的 (どうしたいのか)	年間を通して農作物の収穫体験を実施し、中井町の農業をPRする		

◆目標及び事業の実績

※数値的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	荒廃農地の実態把握、荒廃農地別の活用計画の検討、荒廃農地別の活用計画の実施		
事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績
農作物収穫体験事業 参加人数(米)	38人	31人	48人
農作物収穫体験事業 参加人数(ブルーベリー)	48人	84人	88人
農作物収穫体験事業 参加人数(みかん)	38人	39人	83人
遊休農地・荒廃農地	165	152ha	140ha

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
現時点で把握している遊休農地(耕作放棄地)は、約165haで、今後も増加が見込まれる。所有者には適切な農地の管理をお願いしたい。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)

耕作放棄地の増加速度は増しており、耕作者の確保が課題である。関係機関等と連携して新規就農者の受け入れを促進しているが、それ以上に担い手不足や高齢化による影響が大きく荒廃農地の解消は難しい状況である。

(改善すべき点)

新規就農者の確保・定着支援を強化するとともに、農地中間管理機構を活用した農地の集積・集約化を推進する必要がある。また、地域計画に基づく農地利用の最適化を図り、荒廃農地の発生防止と解消に取り組む必要がある。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	C	C	C	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	B - 2	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ┌ ├ └ — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・全国的に離農や高齢化等により耕作が難しくなっており、遊休農地が増加している。生物多様性を維持する上でも管理費の一部を負担するなどし、新規就農者のニーズを把握するとともに地域計画に基づく農地利用の最適化を図っていただきたい。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	B-2	B-2	B-2	B-2

項 目	河川清掃実施範囲	担 当 課 名	まち整備課
		関 係 課 名	産業環境課
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	水辺保全事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、自治会等	手段 (どのように)	町民が行う自主的な美化活動を支援するとともに、なかいクリーンタウン運動の一環として事業を行う
	目的 (どうしたいのか)	協働して地域の河川環境の保全に取り組むことによって、町の貴重な財産である水環境を保全し、町民が親しむことのできる清潔な環境を維持する		

◆目標及び事業の実績

※数値的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	1年あたりの清掃を行った河川延長を現状と同等以上とする		
事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績
中村川・藤沢川 清掃活動(回数)	2 回/年	2 回/年	2 回/年
中村川・藤沢川 清掃活動(面積)	11,270 m ²	11,270 m ²	11,720 m ²
中村川・藤沢川 清掃活動(活動団体数)	5団体	5団体	5団体

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
河川管理者は必要最小限の草刈りとする方針。当事者が河川の美化を保つ一役を担っている。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)

団体構成員の減少と高齢化が課題

(改善すべき点)

団体構成員の減少と高齢化に伴い、いずれ事業の継続が難しくなる時期の見極め

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ — 1 拡充すべき事業である ├ — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である			
総評	・河川の草刈は流出物の混在や傾斜面での作業になるため、高齢化等により事業継続が難しくなっている。関係機関との連携、民間委託も考慮しながら一部エリアで生物多様性に配慮した管理を試験的に実施し、その成果を踏まえ町が管理するエリアを増やし、自治会の負担を減らすというのもありなのでは。				
過去の二次評価	令和3年度 A	令和4年度 A	令和5年度 A	令和6年度 A	

令和 7 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和8年6月16日
二次評価 令和8年7月22日

項 目	生活排水処理率	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	上下水道課
環 境 像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事 業 名	生活排水処理率向上事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	みなし浄化槽(単独処理 浄化槽)等	手段 (どのように)	広報啓発や戸別保間により下水道区域は下水道に接続、補助事業を有効活用し浄化槽区域は合併処理浄化槽に転換
	目的 (どうしたいのか)	トイレ以外は垂れ流しのみなし浄化槽等を無くし、下水道接続+合併処理浄化槽を100%にして、快適な生活環境への改善と公共用水域の水質保全を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	100%(2026年度)		
事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績
転換補助	2件	1 件	4 件
下水道接続率	82.2%	81.7%	80.6%
浄化槽区域の合併処理浄化槽	37.7%	37.6%	37.4%

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	評 価 基 準	
	B	S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成 C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持
コ メ ン ト		
少しづつではあるが、下水道接続、合併処理浄化槽への転換は進んでいる。		

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)

合併処理浄化槽の維持管理に係る補助金制度の利用者が増えていない。

(改善すべき点)

転換工事及び維持管理の補助金を周知する必要がある。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	A	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の 方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ — 1 拡充すべき事業である ├ — 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・下水道接続、合併処理浄化槽設置により川の水は以前と比べ著しくきれいになった。・下水道接続、合併処理浄化槽への転換が微増であるため、更なる啓発活動が必要である。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	A	A	A	A

令和 7 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和8年6月16日

二次評価 令和8年7月22日

項 目	工場排水調査件数	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事 業 名	工場排水調査事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内事業所	手段 (どのように)	鉱油類、プラント、コーティング業、食品業で下水道に未接続の事業所について、水質汚濁防止法に基づく環境基準での排水検査を実施する
	目的 (どうしたいのか)	油・塩基系溶剤などを使用している事業所の調査を行うことにより、河川への排水の安全を確認し、良好な水環境を保全する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	年3事業所以上(県との連携分を含む)		
	事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績
排水検査実施数		3 事業所	3 事業所

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	評 価 基 準	
	B	S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成 C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持
コ メ ン ト		
対象となる11事業所のうち、毎年3事業所で検査を実施している。 事業所が原因となる水質事故は、近年発生していない。(平成26・28年度に各1件発生)		

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)

対象事業所(11事業所)に対し、毎年3事業所で実施しており、1事業所当たり約4年に1度の検査となっている。

事業所の自主検査など、対策強化の検討も継続的に必要である。

(改善すべき点)河川への影響を考えた場合、下水道への接続も視野に入れる必要がある。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・排水の安全確認は良好な水質を保持し、町民の環境、健康、安心を維持するために重要な事業であるため、自主検査、体制強化を推進していただき、異常値が出たら改善指示をお願いしたい。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	A	A	A	A

令和 7 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和8年6月16日

二次評価 令和8年7月22日

項 目	町内一斉清掃参加人数	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	まち整備課
環 境 像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事 業 名	美化活動支援事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、自治会等	手段 (どのように)	町民が行う自主的な美化活動を支援するとともに、なかいクリーンタウン運動の一環として事業を行う
	目的 (どうしたいのか)	協働して町の環境保全に取り組むことによって、清潔な環境を維持することを目的とする		

◆目標及び事業の実績

※数値的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	現状を維持する(2017年度 4,426人)		
事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績
町内一斉清掃 参加者	3,758人	3,905 人	3,777 人
町内一斉清掃 ごみ回収量(可燃)	11,010kg	10,280 kg	11,730 kg
町内一斉清掃 ごみ回収量(不燃)	500kg	350 kg	420 kg
クリーンウォーキング 参加者	中止	56名	43名
クリーンウォーキング ごみ回収量	0kg	20kg	20kg

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
クリーンタウン運動の一環として行っている事業で、自治会によって草刈りや河川の整備などを行っている。町内一斉清掃の参加者は減少したが、ごみの回収量としては増えていた。また年1回のクリーンウォーキングが雪のため中止になった。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)ごみの回収量自体は大きく増減がなく目標に近い実績が出ている。しかし自治会に加入する人の割合が減少している中、若年層の清掃の参加率が低いと参加者から苦言があった。

(改善すべき点)事業としてこれからも自治会に加入者のみ参加にするのか、未加入者まで参加範囲を広げるのか検討。またさらなどの参加者に向けた特典などを用意してより多くの参加を募るなどのして対策を練ることも可能性として考える。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総 評	・ゴミ回収量が増加しており自治会未加入者等の課題もありますが、長年実施している事業であり地域のふれあい効果も期待でき、生活環境を守る観点から広報等により周知を図り継続実施すべきである。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	A	A	A	A

項 目	環境展等開催数	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	環境教育・学習「環境を学び・考え・行動するまち」		
事 業 名	環境展等実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所	手段 (どのように)	環境に関して学び、考える機会を提供する
	目的 (どうしたいのか)	環境への意識の高揚を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	年2回以上			
事業内容		令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績
環境展		未実施	未実施	6月に開催
美・緑なかいフェスティバルでの啓発		開催	開催	開催
小学校への出前講座		未実施	未実施	1校
自治会への出前講座		未実施	1自治会	

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	C	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
コ メ ン ト			
7年度も環境展の開催ができなかった。美・緑なかいフェスティバルでは水素自動車が発電した電気を使用したモニターで映像を流した。また、来場者に持参してもらったペットボトルキャップで中井町のキャラクターを作成。回収したキャップはリサイクル事業社を通してワクチンとして寄附。自治会・学校等への出前講座は開催できなかったため評価をCとした。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)環境啓発活動を継続的に実施できるような体制づくりが必要である。

(改善すべき点)環境展やイベント以外でも、継続的に環境意識の向上にむけての啓発・取り組みが必要。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の一次評価	D	C	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の 方向性	B - 2	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ - 1 拡充すべき事業である ├ - 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ - 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・継続実施すべき事業ではあるが、令和6、7年度は環境展が実施されなかったことや出前講座の実績が二年連続で「0」のため、継続的に啓発が可能な手法として環境アドバイザー事業委託や環境専門員などを設けるなどの検討が必要。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	B-2	A	A	A

令和 7 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和8年6月16日
二次評価 令和8年7月22日

項 目	自然観察会開催数	担 当 課 名	生涯学習課
		関 係 課 名	
環 境 像	環境教育・学習「環境を学び・考え・行動するまち」		
事 業 名	自然観察会実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民	手段 (どのように)	自然観察会を実施する
	目的 (どうしたいのか)	里山や水辺を中心とした動植物の生態系などを町民等に知っていただき、町の自然環境の保全等に積極的に取り組んでいただく 特に子供たちに対しては、自然の中で動植物と触れ合う機会を提供するとともに、町の特徴の一つである自然の豊かさやすばらしさを伝え、将来の環境教育の担い手となるような人材育成を図る		

◆目標及び事業の実績

※数値的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	年5回以上(関係団体等との連携強化)		
事業内容	令和7年度 実績	令和6年度 実績	令和5年度 実績
自然観察会の開催(総参加者数)	46名	14名	16名

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	評 価 基 準	
	B	S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成
		C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ
		D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
	B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト	
	全3回の開催を予定していたが2回は雨天中止となった。夏に開催したライトトラップには多くの人の参加があった。	

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

(課題)

設定テーマによって申込者数が少ない場合がある。雨天のみならず気温やその他条件により生きものが観察できるかが左右され、予備日の設定も講師を招く都合上難しくなっている。生涯学習課のみでは目標実施回数である年5回以上の実施が難しい(改善すべき点)

雨天時に屋内で実施できるプログラムを用意する等、雨天時の対応について検討する。環境・生物多様性の所管課と連携し、関係団体の協力を仰ぎながら、目標の実施回数達成を目指したい。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度
過去の一次評価	D	D	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の 方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ — 1 拡充すべき事業である └ — 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・担当課のみで目標実施回数の年5回以上が難しいのであれば、3回は自主事業、2回は関連団体と共催など予算措置も必要なので、雨天を考慮した代替え事業も含め見直しを検討してみては。	

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
過去の二次評価	A	A	B-2	B-2